

パキスタン国バロチスタン州の中間流通業者の役割について

<その1>

農産物市場流通の概観と主な中間流通業者について

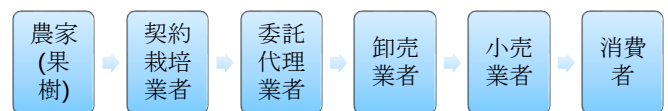
今日まで、流通革命や IT 技術の進歩の度に、各中間流通業者の存立意義の議論が繰返されてきた。不要論がある一方、必要とされているからこそ存在しているのも事実である。中間流通業者のひとつの役割は、生産者と消費者を繋ぐ橋渡しの役割だと考えられる。特にアフリカやアジアの新興国と言われる農村地域では、生物資源である農産物を取扱うことにおいて、道路や流通施設の未整備に加えて、品質担保、取引条件、市場情報等の隔たりが多い為、中間流通業者の介在により生産から消費までのこれら様々な隔たりを埋めている。国際耕種は 2019 年よりパキスタン国バロチスタン州(以下、パ国およびバ州)を対象地域とするプロジェクトに携わっており、農家や公的普及組織以外のアクターの調査を通して、中間流通業者の在り方について興味深い結果を得た。そこでミニシリーズとして2回にわたり、バ州の農産物市場流通の状況を紹介し、農家にとっての中間流通業者の介在の意義について考えたいと思う。

バ州の農業は、州の 3 分の 1 の GDP に貢献しており、約 3 分の 2 の労働人口が農業に従事している。複雑な地形により気候条件も様々なことから、多種多様な作物が栽培されており、州北部地方は、グレープ、アプリコット等の果樹が国の生産量の 90%以上を占めており、パキスタンのフルーツバスケットともいわれている。

バ州はパ国内でも有名な果樹の産地であるが、農産物公設市場(価格支持・統制が行われている市場)の数が他州と比べて少ないことが特徴的である。バ州はパ国の 44%を占める面積でありながら、公設市場はクエッタ地区とナシラバード地区の 2 ヶ所しかない。穀物をはじめ果樹や野菜など園芸生産が盛んな同国パンジャブ州では、バ州の 6 割程度の面積に 200 ヶ所以上、シンド州でも 25 ヶ所以上公設市場がある。流通施設についても、パンジャブ州では 500 ヶ所以上、シンド州では 25 ヶ所以上の冷蔵貯蔵施設があるのに対

し、バ州内には冷蔵貯蔵施設、包装施設ともにかぞえるほどしかない。加えて、バ州の地相は複雑で各地の主幹道路は悪路でも有名であり、州内市場へのアクセスが非常に悪い。そのため大多数の果樹農家は、州外の市場へ出荷する傾向がある。

次にバ州の一般的な流通経路については、果樹農家を例に以下のように整理される。



契約栽培業者(Pre-Harvest Contractor)は、開花期に農家に出向いて、契約証拠金の額や支払い方法などの交渉を農家と行う。契約が成立すれば、以後の病虫害管理、施肥、剪定、収穫、梱包、貯蔵、出荷までの生産管理から出荷まですべて業者が請け負う。栽培技術や資金力の不足や、販売や天候によるリスクを最小限にしたいと考える農家には利点の多い仕組みである。農家への支払額や条件は交渉で決まるが、卸売市場の価格をベースに、業者が負担する上記の労力やリスクを考慮して設定される。もちろんこの契約栽培業者に頼らず自ら生産し、直接卸売業者等に出荷をする農家もいる。もうひとつ興味深い存在が、委託代理業者(Commission Agent)であり、流通経路の中で一番重要なアクターである。流通の川上側では、上述した契約栽培業者の資金面等のサポート、農業資材の調達、農家への抵当や書類手続きのいろいろな金貸し業も行い、川中、川下では、卸売市場での価格調整、需給調整等にも関与して、流通経路全体をコントロールしているとも言える。

このようにバ州の市場や流通施設等の条件はあまり整っていないにも関わらず、各中間流通業者の介在で、農家から農産物が消費者まで届いている点は興味深い。次号では、上述した契約栽培業者や委託代理業者の役割をもう少し細かく説明して、農家にとって彼らの介在にどのような意味があるのか、考察したい。